

第20回 電気システムセキュリティ特別技術委員会  
議事録(案)

日時 : 平成28年 12月 19日(月) 15時00分~17時10分

場所 : 自動車会館 2階 会議室

出席者 : 栗原委員長, 寺井委員(A部門長), 徳田委員(A部門代表), 佐藤委員(B部門代表),  
泉井委員(C部門代表), 小林委員(D部門代表), 笹岡委員(E部門代表),  
餘利野委員(2号委員), 奥村委員(2号委員), 毛塚委員(2号委員),  
桂幹事(敬称略), 以上11名

配付資料

- 資料20-0 第20回 電気システムセキュリティ特別技術委員会 議事次第
- 資料20-1 第19回 電気システムセキュリティ特別技術委員会 議事録(案)
- 資料20-2 電気システムセキュリティ特別技術委員会 委員名簿
- 資料20-3-1 「スマートグリッドにおける電磁的セキュリティ特別調査専門委員会」活動報告
- 資料20-3-2 「安全・安心の電気エネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」活動報告
- 資料20-3-3 「Cyber Physical Systems Security 特別調査専門委員会」活動報告
- 資料20-3-4 「スマートグリッドのスマートファシリティ内における EMC 環境特別調査専門委員会」  
活動報告
- 資料20-3-5 「社会インフラ用センサシステムセキュリティ特別調査専門委員会」活動報告
- 資料20-4 平成29年全国大会 シンポジウム 提案書
- 資料20-5 電気システムセキュリティ特別技術委員会関連 進捗状況

議事概要

1 開会挨拶

栗原委員長より, 開会にあたり挨拶があった。

2 前回議事録の確認

資料20-1に基づき, 平成28年10月17日に開催された第19回委員会の議事録(案)について  
確認を行い, 承認された。

3 特別調査専門委員会からの報告

3-1 「スマートグリッドにおける電磁的セキュリティ特別調査専門委員会」(徳田委員)

資料20-3-1に基づき, 活動状況について報告があった。

年度内にあと2回委員会を開催する予定。技術報告単行本の出版社への出稿は年度末となる見込みである。

(栗原委員長) 何部くらい刷られるのか。

(徳田委員) 出版社(科学情報出版)と電気学会の間での計画はあるが, 最終的に出版社が部数や価格を決めることになる。

(栗原委員長) どの層を対象としているのか。

(徳田委員) どちらかという一般向けと言うよりは専門家向けの内容になっている。

(泉井委員) 出版時にシンポジウムを開催すると良いのではないか。

(栗原委員長) 部門だと技術報告発刊時はフォーラムなどを開催している。

(奥村委員) 静電気などの内容について、「スマートグリッドのスマートファシリティ内における EMC 環境特別調査専門委員会」で扱う内容が被らないようにして頂けると良い。

### 3-2 「安全・安心の電気エネルギーセキュリティ特別調査専門委員会」(餘利野委員)

資料20-3-2に基づき、活動状況について報告があった。

技術報告(に準じるもの)について、一般にも分かりやすい表記への変更している。メール審議を行いながら執筆を進めている。

(栗原委員長) 原稿はどのようなイメージか。

(餘利野委員) 電気学会誌の特集号の記事を一つの章に纏め、分かりやすく執筆したものを別の章として執筆を進めている。章ごとにダウンロードできるようにするのも良いのではないか。

- ・ 1章：前書き
- ・ 2章：一般向けの分かりやすい内容
- ・ 3章：電気学会誌の特集号の記事

(栗原委員長) 次回委員会までに Web 掲載のイメージを作成頂きたい。解散報告書については、来年3月に提出頂きたい。

### 3-3 「Cyber Physical Systems Security 特別調査専門委員会」(泉井委員)

資料20-3-3に基づき、活動状況について報告があった。

第1回委員会(11月18日)での審議内容について報告された。

第2期の委員会(平成28年8月～平成30年9月)の調査内容と委員会開催スケジュールについて報告があった。

(栗原委員長) NISC はどのような組織か。

(笹岡委員) 内閣サイバーセキュリティセンター(National center of Incident readiness and Strategy for Cybersecurity)である。

(栗原委員長) どのように調査の成果を発信すれば良いか。部門大会シンポジウムのみではもったいないのではないか。

(泉井委員) 芹澤委員長に伝えて検討したい。

### 3-4 「スマートグリッドのスマートファシリティ内における EMC 環境特別調査専門委員会」(奥村委員)

資料20-3-4に基づき、活動状況について報告があった。

第11回委員会(6月15日)、第12回委員会(10月31日)、第13回委員会(12月14日)での審議内容について報告された。

(栗原委員長) 第12回、第13回委員会の議事録(案)に記載されている「論文」とは何を指しているのか。

(奥村委員) 本誌の特集を企画したい。

(栗原委員長) 良い目次ができていますので編修専門第1部会に相談して企画を進めて頂きたい。

3-5 「社会インフラ用センサシステムセキュリティ特別調査専門委員会」(毛塚委員)

資料20-3-5に基づき、活動状況について報告があった。

第1回研究会(11月25日)を開催した。

最終報告の形態は2018年の全国大会シンポジウムとしたいと考えており、委員会設置期間の延長も視野に入れている。また部門大会でのシンポジウムならびに部門誌での特集号の企画も検討している。

(栗原委員長) 論文になりそうなネタがあるか。

(毛塚委員) 投稿できそうな人がいる。

(栗原委員長) 論文誌の特集号はお願いしたい。活動期間はあまり長くしなくても良いのではないか。

4 平成29年全国大会シンポジウムについて

資料20-4に基づき、全国大会シンポジウムについて確認を行った。

テーマ:「防災における社会インフラ用センサシステムセキュリティの現状」において、4件目の講演が赤羽英夫先生(大阪大学)変更になったことが報告された。

5 今後の活動予定について

(栗原委員長) 電気システムセキュリティ特別技術委員会の今後の活動について検討が必要である。部門単独という形ではなく、引き続き部門横断で検討するようにしていきたい。

(小林委員) 部門横断での検討に加えて、電気学会として外向けに情報発信し、どのようにアピールするかということも検討が必要であろう。提言ができると良い。

(栗原委員長) 部門横断のテーマを選ぶなどして、存在感を出していきたい。

6 その他

なし

以上

次回開催: 第21回 委員会: 平成29年 3月 15日(水)  
全国大会シンポジウム 終了後を予定